

2023年度 長浜バイオ大学保護者懇談会

[当日の質問に対する回答]

1. 現在フロンティアバイオデータサイエンス学科に在籍しているが、バイオデータサイエンス学科へ移ることができるか？

バイオデータサイエンス学科は2024年度開設となるため現状のまま転学科することは出来ない。

2. 現在授業を受けているメディカルバイオサイエンス学科の先生の研究分野に興味があり、今後その先生の研究室への配属を希望しているが可能か？

所属学科が違うため、直接配属は出来ない。しかし、フロンティアバイオサイエンス学科の研究室に所属後、担当の先生と研究内容を相談し、共同研究の形でその先生の指導を受ける機会を得ることは可能。そもそも、まだ1年次前期の段階なので、研究室配属を検討するのは時期尚早。今後の修学によって興味・関心の幅をさらに広げて行ってほしい。

3. JABEEについて詳しく教えてほしい。

本学のカリキュラムは生物工学部門にあたる。JABEE認定プログラムは、世界標準に基づく技術者教育認定基準に適合したプログラムである。修了すれば技術士第一次試験が免除される。プログラム修了後（卒業後）、それぞれの定められた期間で実務を積み、技術士第2次試験を受験することが出来る。

4. 本学で取得できる資格のうち実験動物技術者資格は全員取らないといけないのか？

全員必須ではなく、希望する者のみを受験している。今後の進路などを考え必要であれば受験を検討してもらいたい。

5. 次男の受験を検討している。バイオデータサイエンス学科は医療系か？

医療に限らず、生物全般も含め、幅広い分野におけるデータサイエンスを学ぶ学科となる。

6. 3年次に編入したが、授業についていけないようで、どうしたらよいか？

学習支援のサポートを紹介

7. 教員免許、学芸員などの資格取得は可能か？

本学カリキュラムでは上記資格の取得は不可。

8. 大学までは学校へ登校できなかった。現在、本人は進級を目指し頑張っているが不安定な時もあり不安。大学でもサポートをしてもらえないか？

出席状況を確認し、必要に応じて学科長やHR担当教員と面談を行う。

9. 1週間前、子どもが大学に行けていないことが分かった。（下宿生） 出席回数が足りなければ単位

は取れないのか？ 進級は難しいか？

成績評価の方法（定期試験 100%など）によっては挽回可能な科目もある。ただし、実験や実習の実技科目は出席していないとかなり難しくなる。勉強や学生生活において分からないことがあればチューターや支援センターをうまく活用してほしい。2年次進級は進級要件が単位数（24単位以上修得）のみなので、後期以降もぜひ頑張ってもらいたい。現在は大学からの連絡が付きにくいようなので、保護者の支援をぜひお願いしたい。状況によっては学科長やHR担当教員との面談を行っていく。一度しっかり家庭の中で話し合ってもらいたい。

10. バイオ技術者認定試験中級は1年次生でも受験可能か？

初級は高校生の時に取得済みとのことなので、受験は可能。毎年大学で取りまとめて受験しているので申請をしてほしい。申請期間等は掲示板およびmanabaで告知するのでそれを確認するようにしてほしい。

11. 子どもが一人暮らしをしており、丸1日本人と連絡が取れなかったことがあった。大学に相談したところ電話連絡か Teams での連絡であれば可能と回答された。子どもと連絡が取れない場合にサポートしていただけないか。

大学から学生への連絡は、電話か Teams（またはmanaba）を通して行う。下宿先を訪問しての安否確認等は行っていない。これはチューターの学生についても同様である。

12. 理由は聞けていないが学校になじめていない、登校できていないようだ。人が怖いと言っている。友人作りには積極的では無かったが、高校では同じ中学出身の友人がおり一緒に過ごしていたが、大学に入ってから友人ができていないかも知れない。HRの担任やチューターの先輩には、本人からは相談に行けないことがある。学校に来ることができるようサポートをしていただきたい。

本学に入学する学生は、文系の学生と比べると友人を作るのが苦手な学生が多い。実験科目についてはグループ単位で行っており、グループが入れ替わる中で友人を作る学生が多いようだ。学生が登校できるようにサポートするのは、自宅生・下宿生を問わず家庭の役割であるので、保護者（保証人）から働きかけていただくことが前提となる。登校できているかどうかについては、すべてでは無いがmanabaで出席を取っており、出欠状況を調べることは可能である。また、チューターが1週間に1度 Teams で連絡をしており、既読にならなかつたり、返信が無かつたりした場合は、1ヶ月に1度実施するチューターの会議で担当の教職員にも共有される。学生相談室を含めた大学での支援は自発的に利用することが前提のため、保護者の方からも利用を勧めていただきたい。

13. 学内奨学金の成績優秀者に採用されるには、どの程度の成績が必要なのか。

前年度末までのGPAを基に選考を行い、学部については各学年上位4名を学内奨学金の奨学生として、次点1名をサポーター奨学金の奨学生として採用する。採用者のGPAは年度によって異なるが、ほぼS評価で数個A評価がある程度を目安と考えていただきたい。

14. 大きな怪我をする等して講義を受けられなかった場合、配慮はされるのか。

事務室・教務担当より欠席届を受け取り、欠席理由を記入し担当教員に提出していただく。配慮

するかどうか、および配慮する内容については各担当教員の判断となる。シラバスに成績評価の基準が書かれているため確認いただき、小テストやレポートの実施が多い科目など欠席が成績評価に影響する科目の場合、担当教員と良く相談していただきたい。

15. シラバスはWEBのみなのか、紙での配布はしていないのか。

1、2年次生に関してはWEBのみである。

16. めいこう48号の巻頭特集を見て子どもが参加したいと言っている、どうしたら良いか。

奈良 篤樹先生がご担当のため、教員室を訪ねるようお伝えいただきたい。

17. 早く公立化すれば良いと思っている。2024年度からの公立化は可能なのか。

長浜市と共同での検討が今月からやっと始まったような状況であり、2024年度は難しいと考えている。

18. 家計急変奨学金の申請資格で家計収入625万円未満というのは非常に高く感じる。元々1,000万以上の収入があった場合と、元々500万程度しか収入が無かった場合では負担感が違う。また、コロナ禍で収入が減少している中、さらに収入が1/2に減少となると申請の敷居が高く感じる。

家計収入625万円未満とは申請可能な上限であり、家計支持者の大幅な収入の減少も「およそ1/2以下」としておりあくまで目安である。家計急変の事由に該当するのであれば申請していただいて構わない。選考は家計収入だけではなく、成績や家族構成など複数の要素を基に順位付けをして決定している。そのため、申請しても採用されない可能性もあり、家計急変奨学金に採用されることを前提とした計画を立てることは避けていただきたい。また、家計急変奨学金と学費支援奨学金を両方申請することも可能である（採用は一方のみ）。

19. 大学院への入学者は奨学金が全額免除されると聞いたが本当か。

学内進学で免除されるのは奨学金ではなく入学金である。日本学生支援機構奨学金の返還免除については推薦枠が設定されているため、成績評価、学会発表や特許の申請、論文発表などの実績をあげ、まずは学内選考を通過する必要がある。学内選考で推薦者となった学生を日本学生支援機構に推薦し、大学からの推薦を受け日本学生支援機構で選考が行われる。例年、全額返還免除と半額返還免除を合わせても二、三名程度である。

20. 大学院の入試は英語で行っているのか。学会での発表はすべて英語なのか。

入試についてはすべて日本語で行っている。ただし、修士課程でも英語の必修科目が設定されていたり、英語の論文を毎週の様に見なければ研究を進めることができないため英語は必要になる。博士後期課程では英語による研究報告は必須である。国内の学会でも英語による発表は増えてきているが、英語で発表をするかどうかについては学生による。

21. 大学院に入学して、通常の講義もあり、TA等の業務もあり、学会発表もありでかなりハードでは無いのか。

かなりハードではあるが成長できる。講義を減らすことはできないが、TAについてはどれだけ

入るかは本人が決めることができるため、各自で調整することもできる。大学院進学については学費支払をはじめとして保護者の支援も必要なため、よく相談していただきたい。

22. 大学院に進学した場合、就職先の選択肢が狭くなると聞いたが本当か。

大学院に進学した学生については研究職への就職を希望する学生が多いため、そういった意味では選択肢は狭くなる。ただし、大学院進学後に自分が研究職には向いていないと判断した場合には他の選択肢を選択している学生もいる。

23. 中学・高校と卓球をしており卓球部に入部したいが活動していないようだ。

2023 年度も活動の継続を希望し部員募集を行っていたが、正規部員を確保することができず廃部となった。希望者が複数いる場合、新たに団体を結成することは可能である。

24. 実家が遠方であり一人暮らしをしている。しっかりと講義に出席しているのかわからず、出欠状況などを保護者が確認するシステムはあるのか。

保護者が直接出欠を確認するシステムは無い。お問合せいただければ出欠状況を調査しお伝えすることは可能である。実験科目は必修であり、連続で欠席している場合や、無断で欠席した場合は本人に連絡しており、連絡が取れない等の状況が続けば保護者に連絡することもある。ただし、どうしてもタイムラグがあるため、家庭でサポートしていただくことが前提なので、まず親御さんから連絡していただき、本人が授業に出席できているのか等の状況把握をお願いしたい。

25. 子どもが大学に支援申請を提出しているのかを知りたい。

支援申請には学生本人だけでは無く保護者の同意も必要である。そのため、保護者が把握していないのであれば、支援申請が提出されていることは無い。

26. 子どもが入学直後に支援申請して迅速に対応してもらった。通学することに不安を抱えていたが、先生方やぴあサポの方のおかげもあり、何とか登校できている、と謝意を伝えられた。

27. 英語のクラスはどのようにクラス分けをされているか。英語の成績が悪い場合どのようにフォローされているか。

- ・到達段階に応じたクラス編成を行っている。
- ・英語が苦手な学生には、学習支援センターで勉強の仕方等のアドバイスをを行っている。英語が得意な学習アドバイザーもいる。

28. 学年が進むにつれて英語のコミュニケーション能力がなければ困るとのことだが、どのぐらいのレベルが必要なのか。学習支援センターでは何を支援してくれるのか。

- ・クラスごとに、現在のレベルからの向上を目指していると思う。支援センターの各学習アドバイザーも様々な経験をしているので、苦手だけれど頑張った経験を持っているかもしれない。それを元にアドバイスがあると思うので、自学自習の助けとしてもらえれば。英語の得意な学習アドバイザーと約束して毎週アドバイスを受けることも可能。

29. 留年になりそうな場合のフォローはあるのか。

・留年の可能性があれば学期ごとの成績送付と共に通知されるので、面談の相談を行ってもらえれば。

**30. 高校で数学を選択しておらず、微分積分が分からない。学習支援センターに行こうと思っているが、
どういう形で教えてくれるのか。**

・開室時間内であればいつ来室してもいい。数学が得意な学習アドバイザーがおり、そのアドバイザーと約束をして決まった日時に来室してもいい。

31. 電子辞書は必ず購入しなければならないか。

・学生全員が必ず所持している訳ではない。インターネット上の辞書を活用している学生もいる。

32. 大学入学まで6年間寝たきりの生活だった。大学入学後は一生懸命通学し、課題等に一生懸命取り組むなど、必死に闘っている。その反動で休みの日は1日寝ており、ゴールデンウィーク明けは体力的に大学に通えなかった時期もあった。この前の化学基礎の中間試験で50点台だったが、友人関係も良く、何としても2年次生に進級したい。どうすれば単位をスムーズに取得できるのか。本人は中学から急に大学生を迎えている状況で、言われないとできないらしく、「必ず〇〇を下さい。」というような強い指示や声掛けを是非お願いしたい。普段本人とはあまり話ができいないようで、大学から言っていただくことは可能か。

・化学基礎クラスの担当教員からの声掛けは可能であることと、学習支援センターの教員は化学基礎の科目担当者でもあるので、学習支援センターでのフォローも可能である。学習支援センターの教員は多くの1年次生科目を担当しており、また、学生アドバイザーによる相談体制もあるので、是非学習支援センターに来室し頼ってもらえれば。

・各科目において小テストや中間テスト、課題等を課しており、学生自身がどこまで理解できているかが分かる工夫を行っている。その点をこなしていければ大丈夫だと思う。

・科目によっては追試を行ったり、状況によっては課題提出における配慮を行うケースもある。各科目の担当教員に相談してもらえれば。

33. ゴールデンウィーク明けにまとまって休んだ際に、大学での学びと実践方法Ⅰでグループワークがあり、ついていけない感じである。どうしたらいいか。

・学習支援センターに相談に来てほしい。

34. 大学に入ってすごく勉強するようになったが、性格的にほわっとして要領があまりよくない。本人の周りは計画的に勉強する子が多く、友人や学生チューターに聞いてなんとかやっているようである。農作や土壌関係に興味を持っていて、受講しているバイオ実験夢チャレンジⅠで連作障害や土壌微生物を頑張っている。一方で英語と国語（レポートやプレゼンテーションでどの言葉を使えばきちんと伝えられるか）が苦手で、親としては学習支援センターに行くことを上手く誘導したいのだが、1人で行くのがどうも苦手なようである。

・夢チャレンジの先生が、質問に応じた専門の先生を紹介した上で、質問に行くようアドバイスを行っている。

・レポートやプレゼンの作り方に関しては、どの教員でも対応は可能である。まずは学習支援センタ

ーに何でも相談しに来てもらえれば。1人で来るのが苦手であれば、友人を誘って来室してもいい。

35. バイオ技術者認定試験の中級を受けたいのだが、ホームページで資格取得の半額補助を受けられるとあった。どのような制度か。

・総務担当に相談して是非活用してください。

36. 本人は発達障害であるが、手帳を持つことを嫌がっていて返納した。発達障害のある学生がこの大学でこれまでちゃんと上手くやっているのか、その事例を聞きたい。また、本人が大学にちゃんと行っているのか、親として把握したい。本人が授業に出席しているかどうか親に知らせるシステムはないのか。

・発達障害の学生で、自分のやり方を見つけてきちんと卒業していった例はある。障害学生支援に関しては窓口がある。(配布資料の該当箇所を紹介。) 本人が配慮を希望した上で、本人からの申し出が必要となる。申請した場合、配慮してほしい内容に応じて対応はしている。(本人が希望しているかどうかについては、本人と話していないので分からない。本人を飛び越えて相談している。)

・出席状況の確認連絡について、以前は行っていた事例があったので、現在でも可能だと思われる。教務担当に相談してほしい。

・障害学習支援に関する相談や本人が申請しているかどうかについては学生生活支援担当に、本人の出席状況については教務担当に、それぞれ相談してほしい。

37. 1年時に必修科目を落とした。基礎学力が心配。単位修得がギリギリの学生に対して、大学からアクションしてもらうことはできないか。本人は自分から積極的に行くタイプではないので、大学からのアプローチを是非にお願いしたい。「めいこう」で奈良先生の活動を見て、本人に参加したらとは勧めているが、大学からも頻繁に声掛けしてもらえないか。

・単位修得状況については、ホームルーム面談で担任の先生が尋ねてアドバイスすることがある。半期ごとなので、科目に関する相談をきっかけに、学習支援センターに来室してもらえれば。

・学習支援センターの高橋先生はアニマル学科所属でもあるので、高橋先生にお伝えして本人へのアプローチを考えてみる。

38. これまで専門学校で学んできた化学と、本学の授業で受けている化学の内容がまるで違う。パソコンの授業も初めて学ぶ内容ばかり。本人はできない、分からないながらも、近くの同級生に聞くなどして何とかやっているが、それに加えて、教養科目やレポートもこなさないとならず、毎日必死で他のことに目がいかない状態である。発表でも酷評ばかりで、落ち込んでいる。3年次編入生には担任もおらず1人きりで、非常に心配である。周りの学生に迷惑をかけているということも気にしている。

・本人が受講していた入学前教育の担当教員は学習支援センターの教員であるため、こういう時こそ学習支援センターに是非相談に来てもらえれば。同学年の学習アドバイザーもいるので、そこからの繋がりを契機として前向きになれば。

39. 大学院卒の就職活動はどのようなイメージですか？

就職活動の時期はどんどん早まっている。学部卒での就職活動と大学院卒の就職活動は若干時期がずれていて修士の就職活動の方が基本的に早く始まる。修士の就職は早い学生だと M1 の夏休みでインターンシップに参加して就活を始め、M2 に上がるころには内定している学生もいる。就職のエントリー方法は基本的には学部卒と変わらない。昔は研究室の教授推薦などもあったが、最近はとても少ない。

40. 大学で把握されている卒業生の定着率（離職率）はどのくらいですか？

全国的な大卒以上の新卒社員の離職率は入社 3 年以内で 2~3 割と言われている。企業側の個人情報保護の観点から、本学卒業生の離職率に関するすべての正確な数字は把握できていない。ただし、授業で講演いただいた卒業生の話を聞いていると、転職者が毎年 1~2 人はいるが、一昔前のネガティブな印象の転職ではなく、前向きなキャリアアップを目的として転職している人が多い。女性の場合、家庭やプライベートを考慮して、地元に戻ってキャリアアップできる職場をサーチして転職したという卒業生もいらっしゃる。

学生の考え方が変化している。学生と話をしていると 1 つの会社で勤めあげたい学生よりも、転職をポジティブに考えている学生が増加している。

企業の方から聞いている話だと 3 割ぐらいは転職している。社会的にも長く同じ会社で勤めあげると言う考えが変化してきている。コンピュータ技術、AI、IT 技術を持っている人が求められる世の中で、リスクリングやリカレント教育が推奨され、社会人で働きながらコンピュータ知識を習得する人も増加していくと思う。会社が嫌だから辞めるのではなく、新しい方向に進んでいこうとする人は今後、増加していくと思われる。

41. 子供は、自分からアクションを起こすタイプではない。1 人暮らしをしている為、何をしているのか全く見えてこない。就職に関してもピンときていない。学校として、そういう学生にアドバイス等してもらえているのか？

研究室配属が決定する 3 年次後期に、就職・キャリア推進室職員が学生全員を対象に面談を実施している。そこでは進路の聞き取りと合わせて、進路決定に必要な動き方などもアドバイスしている。その後も職員が研究室単位で学生を担当しており、学内の SNS（チャット）等を利用し、学生個々に連絡をとり状況を把握している。それでも連絡が取れない場合は、電話での連絡や研究室の教員と協力して状況の聞き取りを行うようにしている。

保護者の皆様からも気軽にサポートセンターに相談に行くように勧めていただきたい。

フロンティアバイオサイエンス学科においては、3 年次の 7 月に研究室の希望アンケートを実施し、7~8 月の間に研究室配属を決定している。その後、教員により時期は異なるが、配属された学生と研究室指導教員で面談をしている。その頃、進路を決めていない学生も多くいる。そこで、私の研究室では夏休み期間中に考えるようにアドバイスし、後期に改めて学生と面談をして確認している。研究室の学生たちには、求人が増える 3 年次 3 月までには方向性を決めるように伝えている。また、自分の人生だから焦らずじっくりと自分で決めるように伝えている。時間がかかっても、学生自身が納得する就職先を見付けられる方が良いと考えている。そうすることが、長い間勤めることができ、人間形成のきっかけにもなるのではと考えている。

42. 3 回生から色々な企業のインターンシップへ行き 2 社採用試験を受けた。どちらも最終面接まで進

み、第1希望の企業の最終面接の方が早く内定をもらった時点で、もう1社の最終面接を辞退した。その時点で、卒業研究に時間を使いたいと就活を辞めてしまった。ひと昔前なら、複数の会社から内定をもらったという話をよく聞き、本人が希望する会社に決まったので、もう十分とも思われるが、これで大丈夫かという心配な面もある。最近の就活で、内定獲得後にどのような対応をすべきかお聞きしたい。

本人の一番行きたいところに決まっており、かつ、他に選考が残っていても辞退を自分から申し出ることは、相手の企業に対しても紳士的で誠意ある行動である。ご本人は正しいことをされている。逆に、10月1日の内定式後も複数内定を持ち続けたまま進路選択を行う（内定を辞退する）場合、雇用契約上、企業側から問題視される場合がある。

内定先に納得したつもりでいたが、4年生の夏以降、漠然とした不安をかかえ、進路を変更したいと考えたりする学生がごく稀にいる。そのような場合には、大学に相談をして欲しい。本学では、学生本人にとって、何がベストなのかを一緒に考えられる体制を整えている。

今回のケースでは3年次の夏から多数のインターンシップに参加されているという点から、企業のことも調べ、自己分析も十分行なっておられると思われる。どれだけ多くの企業と出会い、企業研究や自己分析をし、納得してこの会社で働きたいと思えるかが大切なことである。危険なのは、3年次の3月から就活を始め、1~2社受けて内定をもらい決めてしまうこと。企業のことも自分のことも良く知らずに決めてしまうことはミスマッチの原因となる。

43. 内定を1社に絞ったことはいいが、このご時世倒産リスクがあるので、ギリギリまで内定をキープした方がよいのではと思うが、万が一、倒産した場合、その時はサポートしてもらえるのか？

もちろん、求人紹介など就職活動のサポートは行う。また、日本企業の場合、内定の取り消しや解雇は簡単に行えるものではない。

一時期、コロナ禍で内定取消がニュースで騒がれたが、本学卒業生では無かった。東日本大震災の時に、滋賀県内の企業で、主要取引先である東北地方の企業が被災し事業継続が危ういという理由から、内定取消事例が1件あったと聞いている。

44. 仕事で高校生の就職・進学支援をしていて、離職率の低い企業を学校に呼んだり、ミスマッチを少なくするために合同説明会に引率したり、離職率の低い企業リストなど平成20年度以降のデータを数値化したりして配布している。大学では学んだことを生かせそうな企業リスト、先輩の活躍している企業紹介一覧等、企業選択に有効なリストを提供しているか？

過去の卒業生の就職先を毎年集計し、一覧として学生に開示している。学生専用のホームページに掲載し、キャリアサポートセンターには印刷して置いている。加えて、学生が閲覧できる求人検索ナビ（大学に届いた求人票を閲覧できる求人サイト）では、企業毎に採用実績、離職者数を確認することができる。

また、本学では合同業界研究会、業界セミナー、学内企業説明会など、企業の採用担当者を招いた学内イベントを実施している。参加いただく企業は、基本的に本学の学生の内定・就職実績がある企業であり、就職実績がある企業に直接出会える機会となっている。

45. アニマルバイオサイエンス学科の就職先の分類で動物関連がものすごく少ない。何か理由があるのか？

アニマルバイオサイエンス学科は食品衛生管理者の資格が取れること、比較的イメージがしやすいことから就職先として食品系が多い。動物関連が少なく見えるが他の学科に比べると多い。動物関連では1次産業を除く動物に関わる仕事を含んでいる。たとえば、動物園（アドベンチャーワールドなど）、水族館、ペット関連の商材関連企業や実験動物関係企業などに就職実績がある。動物園などは新規採用枠が少なく求人数はかなり少ない。

46. 資料を見ると、就職で重視されるのは資格ではなく人間性だとある。保護者会から資格取得支援の補助制度があるが、資格が就職に重要でなければ、この補助費用を他に支出してもらった方が良くとも考えられる。資格は、就職や将来に有効なのでサポートした方が良くという考えであったが、ご意見を伺いたい。

資格取得に補助を出していただいていることは、非常に良いことだと感謝している。保護者会が資格取得を後押ししてくれるこの補助は、学生にとって学びのモチベーションになっている。取得が難しい実験動物技術者の資格では、他大学に比べて本学からは多くの合格者が出ている。

補助の対象となる資格やレベルの範囲を少しでも広げられるようにご検討いただきたい。

目的を持って資格を取ることは企業側に評価される。自分で目的を持って勉強をしてその証明として資格を取得することは、その人の人柄の1つといえる。

単に「就職に有利だから資格を取る」ことは人事に面接を通じて見抜かれる。また、無目的にお金と時間を使う人だと判断されてしまう。

自ら学びたいと思う学生に対し、保護者会から学びを応援してもらえるこの補助は、とてもありがたいことである。

今年、補助する資格を追加した。教員と相談し、就職してからその人の力になるような資格を追加した。今後も、保護者会として随時、追加できる資格について検討していきたいと考える。

47. メディカルバイオサイエンス学科の就職先はIT関係の仕事が多いようであるが、IT関連とはどのような仕事をするのか教えて欲しい。

SEプログラマーが多く、ソフトウェアやハードウェアの開発、プログラミングしながらシステムを組んでいく業務など。具体的な例では、電子カルテのシステムや業務用システムをプログラミングしたり、医療機器や理化学機器などの組込みシステムを作成したりしている。

48. 大学の学びの中で、(IT関係の仕事に就けるような知識を)習得できるのか？

プログラミングに関して基礎的なことは教えている。入社後に大学で学んでいないコンピュータ言語を使うこともあるが、3ヶ月から半年のプログラミングなどの研修を設けている企業も少ない。

49. 夏休み明けに就職等の面談が行われるということであるが、今この時期(6~7月)に準備しておくよい事があれば教えて欲しい。

学生の長期休暇中にインターンシップを行う企業が増加している。3~5日間で実体験を伴うものもあるが、最近はオープン・カンパニー(1日インターンシップ)で対面やオンラインでしばしば実施されている。ぜひ、幅広い業界でたくさん参加していただきたい。世の中に、どのような会社があって、どんな職種があって、どのような能力がもとめられているのかを体感して知って欲しい。

い。

50. インターンシップに参加した後で、やっぱり進学しようという学生はいると思うが、実際にそのようなケースは多いのか？

就職から進学、進学から就職に切り替える人はいる。切り替える理由やタイミングは様々である。例えば、インターンシップに参加し、研究開発に就きたいという思いから大学院進学に切り替える。3年次の年末年始に親戚や家族と話していくうちに進路を切り替える。内定をもらった後に進学に切り替える。逆に、進学しようとしていたが家庭の事情などで4年次の夏休み明けから就活を始める学生もいる。

3年次になると授業の他に進路決定への準備、インターンシップ、就職活動などが始まるため、自由な時間があるようで、意外にない。2年次の夏休みは思いきり自分のやりたいことを経験できるようにサポートしていただきたい。学生生活でしか経験できないことをたくさん経験することが、その人の人柄の形成や成長になり、面接などでの自己PRにもつながる。

大学院に行きたい場合、学内進学であれば4年次の4月頃から準備を進めても間に合うが、就活を始めるタイミングはそれよりも早い。就活は大学院に進学しても必要になるため、進路を迷う場合は、まずは就活を経験しておくことを勧める。

51. 卒業生が来られて話をされる機会はあるのか？

キャリア科目の中で、1年次向けの必修授業と3年次向けの選択授業の中で、卒業生を招いてキャリアに関する講演を聞ける機会を設けている。

52. インターンシップに行った方が内定率はよいのか？

積極的にインターンシップに参加する学生の方が内定率は高い傾向にある。活動開始時期が早い学生の方が、結果的に内定を獲得するタイミングも早く、内定数も多くなる。

インターンシップに参加した企業から内定をもらえるから内定率が高いということではない。インターンシップにたくさん参加している学生は、社会や仕事に対する理解が高まっていることと、自分がやりたい仕事や自分を自己PRする経験を積んできていることがあるため、内定率が高くなると考えている。インターンシップは、機会があれば、ぜひ参加していただきたいと考える。

53. 求人が確実に来る企業は、毎年何社ぐらいあるか？

例年、推薦求人という形でいただく企業は5~6社程度である。

マイナビ・リクナビ等の有名なナビサイトには掲載せず、特定の大学にだけ直接求人を出される企業もある。また、「既卒の学生でもいいのですぐに欲しい」という企業もある。

54. タスク・シフト/シェア講習会は卒業してから受講することになっているが、それは勤務先から受けるように言ってもらえるのか。

まずは勤務先で日本臨床検査技師会(学会)に加入してください。受講に関しては、自分ですか、勤務先(病院)によっては受講料が病院から出る場合もあります。

55. 臨床の就活講座以外にコンサルタントなどの指導は受けられるのか？

受けられます。国家資格キャリアコンサルタントがサポートセンターで全学年に対して個別指導を行っています。

56. そのコンサルタントに別途、料金は発生するの？

特に発生しません。気軽に低年次から来てください。

57. 病院に就職したいが、企業や検査センターも滑り止めの的に内定をもらっておかないといけないのでは？

病院就職であれば、病院を第一希望に受けてもらいたいのと、求人は国家試験後もあることを踏まえて、とにかく国家試験に絶対受かることを第一目標にするのが大事です。

一般企業と病院の内定の考え方が大きく異なります。病院または検査センターで資格職として内定通知をもらい、承諾した後に、他の病院から内定をもらったので断りますということはありません。

58. 臨地実習先の病院は地元の病院などを選ぶことができるのか？

臨地実習病院の希望は聞くが、選択できる施設が決まっているので、その中から選ぶことになる。全員と調整するため、希望通りになるかもわからない。